研究課題　参詣曼荼羅図を中心とする富士山信仰史資料の総合的研究と公開

研究経費　九万円（前年度よりの繰越分）

研究組織

　研究代表者　　　大高康正（静岡県富士山世界遺産センター・教授）

　所内共同研究者　藤原重雄・及川亘

　所外共同研究者　井上卓哉（富士市市民部文化振興課・主査）・阿部泰郎（名古屋大学高等研究院・客員教授、龍谷大学文学部・特任教授）・伊藤聡（茨城大学人文学部・教授）・阿部美香（昭和女子大学・非常勤講師）・三好俊徳（名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テクスト学研究センター・研究員）・猪瀬千尋（名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テクスト学研究センター・特任研究員）

研究の概要

（１）課題の概要

　富士山南麓には、中世／近世／近代を通じて形成・伝承された豊かな富士山信仰に関わる資料が散在する。例えば村山修験の祖末代上人ゆかりの村山浅間神社の信仰資料（富士宮市教育委員会寄託）や、富士下方五社の別当寺であった富士山東泉院伝来の顕密仏教の聖教資料（富士山かぐや姫ミュージアム所蔵）などが挙げられる。これらの信仰遺産は個別に調査が進められてきたが、その全体を把握し歴史的関連のもとに位置付けることは、富士山信仰の総合的研究と情報共有の上で急務である。  
そのための指標として、本研究は富士山信仰の世界観を象徴的に描いている富士参詣曼荼羅図を活用して、富士山信仰史資料の総合的研究と整理保存に基づく公開を目指す。加えて一切経をはじめとして、儀礼書や唱導文芸など、時代や位相の異なる多様な信仰資料も存在しており、これらジャンルの異なる資料の全体像を把握し、アーカイブス化を進めていく必要がある。

（２）研究の成果

　富士山南麓の富士山信仰に関わる史料群について、二〇一九年度に実施できた亀山市内に引き続き、二〇二〇年度への繰越分を活用して、三重県内にての史料・現地調査を実現できた。  
神宮文庫では、申請可能な上限数の件数にて、富士信仰関係史料を閲覧した。このうち、詳しい分析や既知の史料との照合を必要とするものについては、紙焼きの頒布を受けた。  
志摩市歴史民俗資料館では、本課題と直結する企画展「熊野古道沿いの富士信仰―伊勢志摩とのつながり―」を開催中で、展示見学とともに担当者との情報交換を行い、さらに志摩市南張地区の富士講関係者への聞き取りや、鳥羽市海の博物館にても富士信仰関係史料の所在を確認した。これらの成果は、静岡県富士山世界遺産センター編『富士山巡礼路調査報告書　大宮・村山口登山道』（2021年3月）にも翻刻・解題として収録している。